

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editorの責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1ページにつき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1ページにつき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編 集 後 記

6月20日から23日までパリのユネスコビルで行われた International Consultation on Prostate Cancer (ICPC)に参加した。ICPCは、WHOが重要な泌尿器科疾患の世界的コンセンサスを作るという目的でサポートしている International Consultation on Urologic Diseasesの前立腺癌部門である。ICPCは1996年にモナコで第1回が開かれて以来今回で3回目であり、世界の各地域を代表して多くの専門家が集まりコンセンサスと提言をまとめることになっている。この会議の特徴は、参加者全員が何らかの役割を分担させられて提言作りに参加しなければならないことである。約半年前からいくつかあるコミッティーのひとつに振り分けられ、班長の指示のもとに提言作りに参加し、その総括がパリの本会議で行われるという流れである。

この会議は単なるお客さんの参加ではないという点で緊張感のある有意義な会議であるが、やはりここでも英語力の乏しさにくやしい思いをすることが多い。サイエンスは英語で語れるののだが、コンセンサス作りというような会議英語はなかなか手強い。結局、ICPCも米国やヨーロッパ諸国の主導という形にならざるを得ないのである。いずれにしてもICPCの提言は翌年にはproceedingsという形で分厚い本となって発行される。班長の熱意が伝わるような大変良い本であるので一読をお勧めしたい。

日本からも泌尿器科学会からの推薦とICPC本部から指名を受けた10名程度の泌尿器科医が参加した。夜は例によって懇親の食事会をおいしいワインと一緒に楽しんだが、私自身はパリのコンコルド広場の地下鉄でスリにあってしまった。前立腺癌の勉強だけではなく、貴重な社会勉強をさせてもらったというほろ苦い記憶として残る第3回ICPCとなった。今後パリに行く予定のかたはスリには充分気をつけて下さい。(小川 修)

泌尿器科紀要 第48巻 第7号 2002年7月25日 印刷 2002年7月31日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

http://web.kyoto-inet.or.jp/people/acta_uro/index.html
 印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
